

要約版

第11回市民ふれあいトーク 真備地区の個性と魅力を伸ばすには

日時 平成22年2月17日 18:30~20:00

場所 真備保健福祉会館

市長

夕方のお忙しいとき、また寒いときに多くの皆様にお越しいただきましてありがとうございます。

今日のテーマ「真備地区の個性と魅力を伸ばすには」ということで、皆様方からこの真備の個性と魅力について教えていただけたらと思っております。

まず最初に私が思っている真備について少しお話ししたいと思います。真備地区は本当に旧町のころからまちづくり推進協議会を中心としまして、非常にまとまりのある地区だと思っております。七つのまちづくり推進協議会のもとに色々な施策を行っておられまして、去年、推進協議会の皆さんと会議をさせていただき、その中でもご指導いただいたところですが、旧真備町の時の総合計画の中でもしっかりそれを規定されていて、(まちづくり協議会は)町の中心になっているというふうに思っております。

また、地域の特色といたしましては、本当に歴史と文化の町だというふうに思っておりますし、竹を中心とします産業の面でも豊かなところだと思っております。真備公を中心とします学問の地域であり、文化の地域であり、それから囲碁についても真備さんが持ってこられたというふうに伺っておりますし、3月下旬に国立能楽堂で野村万斎さんが真備さんを演じるということを聞きました。

4月にテレビで奈良の大仏をテーマにされるその中で「北の国から」で有名な吉岡さんが真備さんを演じられて、その面でも全国的にも非常に有名になってもらえるんじゃないかなと思っております。

そのような歴史の町、学問の町ということでありまして、一言申し上げさせていただきたいと思いますけれども、県の教育委員会が県立の支援学校を何処に作るかということ協議されております。倉敷市には新田、今の市役所の近くに(市立の)養護学校が1つあるわけですが、岡山市には3つ養護支援学校があります。倉敷市には今のところ(県立の養護学校が)一つもなくて、近くで言いますと西備養護学校が笠岡の近くにあります。倉敷市内には(県立が)一校も無いので検討していこうということで、教育委員会と県とで話をして地域としては高梁とか総社、近隣地域からも通いやすいような井原線沿線、かつ倉敷市内で北、西の方となると、船穂もありますけれども県の要望としては真備公のもともごと出身ということで、学問の教育の非常に発達したところだということで、倉敷市であれば真備のほうに是非作ったらどうかという通知を受けたような状況であります。

まだこれから県の最終的な考えが決まっていくと思うんですけれども、倉敷市としては是非とも倉敷市内に作っていただきたいと思っております。県の方針が決まったら地区の皆さんにも協力をお願いしたいと、新聞にも載り、県からも報告がありましたので、ご報告いたしました。

それでは今日は、皆さまに色々教えていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

参加者 A

14日に「第24回倉敷美術館子どものワクワクドキドキ…」私も不勉強で、例年あるのは知っていたんですけど初めて行かしてもらいました。

子どもたちの絵だけでなく色んなものがありました、小中学校もちろん真備の小中学校も出てましたし、絵や版画・工芸など、子どもたちがそれぞれ工夫を凝らして、本当に各地区個性のある品が出ていました。それぞれの地区の産物であるとか、産業を子どもたちが敏感に活かして、もちろん先生方のご指導もあったと思いますし、会社の支援もあったと思うんですけど、それにしても非常によく勉強していて感動しました。

大人が子どもたちに負けないように、我々ができることは、今までの経験と知恵をいかして、協力できることはボランティアでしたらいんじゃないかなと考えました。

市長も市税収入が落ち込んで大変なところですけど、これは人ごとだと思わずに、我々市民一人一人ができることをやるということで、私も明日確定申告をしようと思います。

僕が一番感じたのは、よその地区でどんなことをやっているか、高校生、大学生が非常に就職難だと。どういうことになっているか、各県に聞いたんですけど、企業と学校とハローワークで綿密なコミュニケーションがある。例えば学校の先生がハローワークまで出かけていたり、高校、大学を出ても3年間は卒業生の面倒を見る、就職できるまで頑張るこれは素晴らしいなと、岡山県や倉敷市はどうなのかなというふうなことを感じましたので、いい事はいいことで真似をしたらどうでしょうと考えました。

市長

ありがとうございました。最初にお話をしないといけないと思っていたことを忘れておりました、一番大切なことは真備・船穂、倉敷に合併をしていただいて、今年の8月で5年になるわけであります。

今年は、昨年から引き続いて市税収入が合計で100億下がるわけです。その中で倉敷市の事業で大変大きな額を今年度割いておりますのが、合併のときにお約束をしております合併の事業、これは真備だけでなく、船穂ですけれども、その大きなものは高梁川の新しい橋がありますし、真備の健康福祉施設。それからたけのこ球場の体育館、大きくは3つだと思います。それで本当にお金がなくて苦しいんです。苦しいんですけれども、なんとか今年、たとえばたけのこ球場は今年の後半にはできる予定であります。

健康福祉施設については、今のままのペースで予算を獲得すれば、来年度そのままいけるんじゃないかと。橋につきましては、政権交代で、国の予算配分が随分変わるんで、心配してはいたんですけども、今のところ平成27年度までには、橋を架けるというスケジュールは変わっておりません。その中で合併の事業としてボーリング調査や橋の設計が進んでおりますので、真備地区で言えばこの3つについては何とか今年も着実に予算をとって進めるように思っています。

あとはソフトの面で、今言ってくださった就職の面でありますとか、竹水の化粧品をはじめとする竹のPRをどういうふうにすればいいかなとも考えております。お金のない中で今年1年踏ん張っていけば、なんとかなるんじゃないかなという希望のもとにやっております。貴重なご意見ありがとうございました。

参加者 B

高梁川新橋の公共事業の削減ということで計画を降ろされるんじゃないかと、ある議員さんの会合で話がありまして、高梁川新橋は真備の住民からしますと、川辺橋の渋滞の解消とか交通の安全の問題とか長年苦労してしまっていて、長い間の切実な要望になってきています。それが今の時点で、ひょっとしたらなくなるかも分からんということで、ぜひ市長の口から計画どおりやるんだと。今日市長に質問しようと思ってきましたが、今の市長の説明で、頑張っていたらいいんだと了解しました。ぜひよろしくをお願いします。

市長

ありがとうございます、ご心配をいただきまして。私もちょっと心配だったので、政権が変わって、なかなか政策が決まらないことがあったり、それから国の全体の予算が18.3%公共事業削減とか言われておりますので、既存で決まっています合併の事業についても全部見直しをするのかと聞きました。そしたら、既存で決まっているものについてはちゃんとやりますというふうに言っていたいておりますので、今のところでは計画通り、もちろん工事で掘ってみたら水がなんてことなどで、少し遅れるというようなことはあるかもしれませんが、今のところ計画どおり進むように国のほうから話はいただいておりますし、皆さんからもなるべく早く作ってもらいたいと伺っておりますので頑張ります。

参加者 C

今私が居住しております学校区では、放課後子ども教室がまだ開設できておりません。いきいき子ども支援の予算の拡大を願いたいのですが、早急な実現を望むには予算の関係で無理があると思いますので、安心して子育てできる魅力のある地域とするために、子どもたちがより多くの地域住民の方たちと触れ合える機会を設けたいので、市民企画提案事業への応募を視野に入れております。そのなかで、放課後子ども教室の開設を目指すことは、市として何か問題になるのでしょうか。

市長

放課後子ども教室は、これまでのところでは、学校の敷地の中を使わないといけないなどの制約が色々ありまして、なかなか進んでなかったんじゃないかと思っております。

それで、国のほうに公民館の分館とか、教育施設を使っての開催ができないか問い合わせしているところです。私も、おっしゃられるように必ず学校の中だけじゃなくて、子どもさんが行ってもらいやすいような場所であればいいなと思い、学校の中で場所が無い場合に学校から出たところでもどうかと検討をしているところです。

それともう1つ、市民企画提案事業にあげていただいたほうがいいかということについては、公民館の分館が使えると許可が出れば、22年度からは難しいかもしれませんが、放課後子ども教室の予算がついて開催が可能になると思います。

参加者 C

確認なんですけど、市民企画提案事業に放課後子ども教室を開催する目的で提案しても、問題ないということですね。

市長

競争倍率もわりとありますし、提案をしていただいている間に、23年度から今の放課後子ども教室と他の地区と同じ仕組みでできますとなった場合には、ちょっと待っていただいたりすることもあるかもしれないんですが、もちろん提案していただいているということは可能です。

参加者 D

真備地区の個性と魅力という、やはり人が安全に快適に住みよい地域に生活できることが大切です。そのためには福祉の向上であるとか交通の利便性、福祉につきましても、新しくできる健康福祉施設も利用しやすい施設にしてください。

最近介護支援ボランティア制度を作るという話がありましたが、また、介護保険課の方にも申し上げますが、作ったけどなかなか利用がしにくいのでは困るので、皆さんが利用しやすいそういう細かい面も考えていただきたいと思います。

市長

ありがとうございました。川辺の健康福祉施設については今年度中にはなんとか完成をしたいと思っているわけですけど、この川辺の健康福祉施設については、玉島の皆さんも大変期待をされているというふうによく話を聞きます。真備ばかりできていいなと玉島の方は言われているんですけど、プールとかも非常に楽しみにされているということで、健康福祉施設ですので、障がいのある方もない方も使いやすいものになるように思っております。

それから、介護支援ボランティア制度なんですけど、これは中国地方で初めての導入をするということになります。東京では稲城市というところがやっていると伺ったんですけども、国の介護に関する制度の中の一つのメニューでありまして、それをまず今年中国地方で始めて取り入れてみようということにいたしました。また、福祉関係の団体の皆さまにもよくご説明をしまして、1年目やってみて、使い勝手がいいか、改良するところがないかで2年、3年と改良していけばいいなと思っております。分かりやすいような参加しやすいような面にしっかり配慮していきたいと思っております。

参加者 D

川辺の健康福祉施設に向けてのさいくるバスが走っていますが、具体的には川辺宿駅に行ってるんですが、川辺宿駅から新しい施設まで4～500メートルあるんです。やはり足の悪い人、お年寄り、子どものためにさいくるバスも入っていったらいいんです。敷地内のバスストップなど細かい事ですが考えていただきたいと思っております。

市長

さいくるバスについては、5人とか数人ぐらしか乗らないということになれば先行きが心配な状況になりますので、これがちゃんと続いていくようにするにはどうすればいいかということ、皆さんとご相談をしながら今後も見直ししていこうと思っております。

今度、施設ができることによって、また人の流れも変わると思っていますので、そこについても含めまして交通の政策のほうと相談をしたいと思っております。

参加者 E

昨年の8月に総務省が「新しいコミュニティのあり方に対する研究会報告書」というのを出しているんですが、今まちづくりの活動の中に自主防犯とかいろんなことを掲げているわけですが、市民サイドの新しい公共空間、市民のサイドの公の考え方、これらを分かりやすく示すことによって、ボランティア活動であるまちづくりがより発展するんじゃないか、「総務省の新しいコミュニティのあり方に対する研究会報告書」というのは住民が取り組む公共というものが従来の考え方よりもさらに強めたというか住民サイドが公共の観点から行う住民運動、そういうものを行政も認めていくべきだというような考え方を示してありますので、その辺ご指導いただければと思います。

市長

「新しいコミュニティのあり方に対する研究会報告書」、総務省が去年の8月に出しているもので、新しい政権になる前ですね。

国のほうでも、自助・公助・共助のお話について、もっと市民協働を行政の一部として取り入れていくと、以前は規制も多かったし範囲も広がったところから、今は規制も緩和をしまして、そのかわり市民の皆さんたちに自分でルールを作ってもらって、役割を果たしていただくというふうに考え方が変わってきていると思います。

その新しいコミュニティに関して国のほうで、市民協働、NPOの皆さんの活動というものを位置づけていった報告書かと思います。

そういう面で真備の地区は、まちづくり推進協議会が各地区をカバーしてやっておられること、旧倉敷のほうでは、コミュニティー協議会をこれから作っていきこうという地区もたくさんあるわけですが、真備は前から作られていまして、地域の要としていらっしゃるところが素晴らしいと思っています。元の倉敷市のほうのやり方とも違うことがあったりして、ちょっとご迷惑をかけていて申し訳ないと思っているんですが、去年に、まちづくり推進協議会の皆さんにお話をいただいたんですけども、それぞれの種類で、たとえば愛育委員だったら愛育委員の連絡も、それは愛育委員のルートでやるけれども、それが地域全般にかかることになるとときには、やっぱりまちづくり推進協議会のほうによくご相談をしてやらないと何事もうまくいかないんじゃないかということをお話いただき、旧倉敷地区のほうが見習っていくべきところもかなり多いんじゃないかなと思っています。地域の皆さんの考え方、役割というのが非常に高いところが真備地区だなと思っています。

参加者 F

水辺のまちあるいは高梁川と小田川の集まった利便性といいますが、個性を考えた場合に、水を利用したまちづくりが非常に大事だと思います。

10年、20年先の考えでいった場合、自然エネルギーであったり産業用の水であったり農業用のものであったり、水がベースになると思います。

そういう点でのインフラを作っていく、それにはどうするかを考えていった場合に柳井原のダムも含めた、あるいは高梁川・小田川の河川敷のダムだとか堰だとかを考えていって、こういう形での倉敷のまちづくりを、行政の中に取り込んでいくことも大切ではないかと考えます。

生活のインフラが整備されてくれば、住みよい町であり色々な形で将来に生きていくと、

あるいは研究機関であったり産業のものであったりが、よってくると思うんです。そういうことでの水辺のまちづくりということを考えていただければ。

ついでに言わせていただきます、この福祉会館は真備の交通アクセスが非常にいいわけですね。矢掛であり井原であり一生懸命井原線振興のため町のためにやっている仲間がいます。

それぞれで協力はするんですけどここを再利用することによって、使いやすくしていただいて、小さな催しも大きなものもできるし、そういうことの利用の仕方も考えられますし、使いやすい施設にしてくれればありがたいなど。

市長

ちょうど柳井原のことについて、大事なことを思い出したんですけれども、小田川の河川の改修ですね。真備町にとって、防災の最大の重要な事項だと思っております。小田川のつけかえ、高梁川とのところで・・・柳井原を通過して小田川に行くように。それによって、水辺の活用ができるようになると思います。

私がいちばん恐れていたのは、国の方が大型事業はしないという話をしましたので、やめてしまうんじゃないかと恐れていたのですが、国に確認したのは「ダムのような上流で大きなものを作るのはなるべくやめると。その代わりに、下流のところで、例えば堤防整備をするなど、下流で対応していけるものはちゃんとやっていこうと思っているんです」ということでした。この小田川の高梁川の河川の改修計画につきましても、一応今計画については国と話をして策定中であり、まだ整備計画を作っている段階ですので、小田川の改修について何年にやりますっていうことは確認はとれていないんですが、今の調子だとちゃんとやっていただけると感じました。それによってまた水辺の活用も・・・本当に真備の大きな特色の1つだと思います。

福祉会館の使い方ですね、もっと使いやすいようにというのは、会議室としてもっと貸したほうがいいとかそういう・・・。

参加者 F

それもあります。公民館から古くなっていますから活動が限られていたり使いにくいと言うのもあります。公民館以外の使い方もあるんじゃないかなと思います。川辺に福祉会館ができれば、あれとの整合性でなんとか他のことでも使えるように。

市長

他のものにも使えるようにですね。確かに真備の中でも、1番大きな福祉の拠点は川辺に今後なりますよね。

福祉施設との役割分担という面で検討していきたいと思います。また建物の使われ方については、支所長はじめ、お話を聞いて検討していきます。

参加者 G

私は防災の面からお話をしようと思っています。体育館の方に備蓄倉庫をこしらえていただくことになりまして、ありがとうございました。これは一応解決です。

小田川の改修ということで、私ども箭田地区では堤防の下から水位が上がったときは、吹き出てくるところが所々ありますので、やはり今後とも小田川の改修計画のほうは進めていただければと思っております。

もう一点は、井原線の活用であるとか地産地消そういう面から、今川辺宿駅のほうは福祉会館が出来ますし、真備駅前だと思っておりますが、支援学校ができると聞いておりますので、呉妹の駅のほうにも道の駅などを考えていただければと。地元も協力するそうですので。

もう一点は、竹のPRということで、6人の臨時職員の方により道端はだいぶ綺麗になっておりまして、できましたら今後もこういう事業を進めていただければ、なおいいんじゃないかなと、私ども緑化協会もがんばっておりますけれどもボランティアで人が集まりません。そういうことで、今後とも予算のほうもよろしくお願いします。それから、さっきも話が出ていました真備の公民館が非常に古くなって雨漏りをしています。分館のほうは使用料がいらないため多く利用いただいておりますが、本館は使用料がいるそうなんです。マービーふれあい会館の使用方も色々考えていただけたらいいと思っておりますがよろしくお願いします。

市長

緑化協会さん、市役所の前の門松大変ありがとうございます。

小田川の改修計画につきましては、さっきも言ってくださいましたけれども、過去の本当にすごい水害を、なんとかそうならないように、この改修自体は高梁川のためにも旧倉敷の地区にとっても恩恵のあることですので、しっかり進めていきたいと思っております。

それから井原線の活用ということで、呉妹駅で行事とかは…。

参加者 G

何も無いです。桜並木があります。

市長

ちょっと道の駅を作れるかどうかということはなんともまだ分からないんですが、やはり各井原線の活用と振興というのは大事ですので、県が真備の箭田に目を付けられたのも井原線の振興という面もあるんじゃないかと思っております。

井原線も確か祝日に、とくとくキップなんかもしておりますし、井原線の沿線の市町とよく相談をしていかないといけないと思います。県立学校が決まってくれば、県としても力を入れてくれると思いますので、しっかりお願いするようにしたいと思っております。

それから真備の公民館のことについては、今日皆さんからお話をいただきましたので今後よく検討をしていきようにしたいと思っております。

それから竹のことを言ってくださいましたが、ほかに竹のことでお話、ご意見がある方と一緒に言っていただけたらありがたいのですが。

参加者 H

今日は荒廃した竹やぶのことにについて提案をしたいと思うんです。荒れ放題の竹やぶがなんと多いことかと思っています。枯れた竹が倒れて足を踏み入れることが出来ないような竹やぶもあります。竹のまち真備は過去のものとなりつつあると思います。

かつての美しい竹やぶを蘇らして、竹のまち真備と言われるようにしたいという思いから次のような提案をさせていただきます。

去年の暮れに、農地利用集積円滑化事業が本格始動しましたが、これにもとづいて耕作放棄地の竹やぶを市が地権者の方から借り上げて市民農園として作り変えて貸し付けたらどうかと思っています。例えば一反ある竹やぶを5～10人に貸し付ける、その人達が話し合いをして共同で農作業をする。農作業する人達は同じ町内会の人、近所の人達となれば、楽しみながら農業に親しむことができるんじゃないのかなと思っています。また、筍掘り等の竹やぶの農作業が始めての人が多いいと思いますが、私達の自治会では30人近くの人竹やぶを持っているので、その人達に指導してもらうことが出来ます。それから市が地権者から借り上げた時点で市民農園化では無く自治会が、里山保全活動としていけばいいのかなと思うんですが、それは市のほうで判断して指導していただけたらと思います。

また、美しい竹やぶを蘇らせるだけでなく、大きな災害に見舞われたときなんかは、町内会が果たす役割がいかに大きいか、日頃から顔を合わせている隣近所の人と協力し合えるような環境をと思っています。町内会内のコミュニケーションが進むのをこの竹やぶが手助けするんじゃないかなと思っています。そういう観点からも竹やぶの市民農営化、竹やぶの保全活動をぜひ進めていただきたいと思います。

また、荒廃した竹藪の再生利用のための整備などに交付金が出ます。農用竹林であるとか耕作放棄地に指定されているなどの交付要件がありますが柔軟な対応をお願いしたいと思います。

最後に市民農営化とは違う話になるんですが、真備の竹を使った竹細工などが商品化されてます。これを真備の小中学校の教育に取り入れていけたらなと思っています。それから美観地区あたりで、市内各地の特産品を置く物産館を作って真備の商品が並ぶようになったらというふうに思っているんですが、ご検討をよろしくお願いします。

市長

昨年末の市議会で竹やぶの整備の予算をつけるようにいたしまして、それは今度の平成22年度の予算でも、議会で認めていただけるようお願いしているところであります。やはり竹は真備の象徴であり、もちろんちゃんと手入れをしていただいているところもあるんですが、荒廃しているところもたくさんあると思います。

竹水の化粧品だけではないんですけども、何とか竹をもっと真備の、倉敷市の特産品としてしっかり見出ししていきたいという思いがあります。竹の整備というのは非常に人手がかかるし、それを昔からずっと地域の皆さんが代々ちゃんとしてこられているからこそ、ちゃんとした竹が育っているということだと聞いております。そのためにはやっぱり竹を使ったものが、世の中によく知られてそれで、特産品として認められて、市場に出て行くようになんとかできないものかと思っています。竹水の化粧品はまず1つだと思いますし、それから今回真備の上のほうにある窯の修善についても平成22年に行うようにいたしまして、何とか竹をしっかり整備をすれば、それが仕事にも繋がるし、若い人もそうい

うところで仕事をしていこうと思ってもらえるようになればいいなというふうに思っているんです。一足飛びにそこまではいかないと思うんですけども、その中で町内の繋がりや、里山保全の事業なんかも活用したらいいんじゃないかと教えていただきましたので、いろいろ組み合わせをしてやっていくように頑張っていきたいと思っております。竹のことは私よりも皆さんのほうが専門家だと思いますので、そのことについてもっとご意見ある方は是非お願いしたいんですけどもいかがでしょうか。

参加者 I

竹のことですけど女性としての考えで、イベントがあるときには筍ご飯などを出しておられますが竹の作品を見ても何か硬いような感じがして、女性向きにしたらどうでしょうか。私はこの間京都で竹で作ったすごく素敵な籠を二つ買って帰ったんですけど、そういう女性向けのものもちょっと考えて、買い物は男性よりも女性が何処へ行っても買い物して帰るものなんで、そんなものもちょっとお願いして。

それから真備公園の中の整備していただいて、観光化する場合はトイレなんかも、いつも綺麗なところは観光が進んで、トイレ休憩ができるから寄って帰ろうとかいうことがよくあるんです。サービスエリアでも龍野なんかすごくトイレが綺麗になって、前はとまってなかったんですが、今はとまるようになりました。トイレも本当に必要なことじゃないかと思しますので、真備公園のほうを整備して、たけのこ球場が出来てそういう例もあると思うので、真備公園のことも考えていただけたら女性の意見としてよろしく願います。

市長

筍ご飯とかもっと女性向きのものを開発したほうがいいんじゃないかというご意見をいただきました。たけのこ球場の横に体育館も出来ますので、野球など倉敷市内は非常に球場も多くて、全国から人がたくさん来られるんですけども、また隣に体育館が出来れば、ますますそういう機会も増えるんじゃないかと思えます。そのときに真備公園などを含めた場所、横溝正史の生家をはじめとして観光地、琴弾岩もそうですし、観光地としての真備を前に出していけたらいいなと思えます。今回の横溝正史のラリーも全国から来ていただいて大変ありがたかったと思しますので、これが続いていければいいなと思っています。

真備公園のトイレですけども、ちょっと私も入ったことがないので、今度確かめてみます。トイレが綺麗かどうかは非常に重要なことだと思いますので、特に人がたくさん来られるところについては、気持ちよく帰ってもらえるようにということが大切だと思います。ご意見ありがとうございました。

参加者 J

私は筍と竹水に着目しています。筍料理コンテストを全国に募集をかけて、おいしい筍料理を開発して、それを真備町でしか食べられないような仕掛けにすれば大勢来ていただけるかなと。筍づくしを食べられるような食堂とかそういう類のものが、せっかく真備町はおいしい筍の産地なのに、筍料理・筍づくしを食べさせてくれるところが無いのでぜひあって欲しいなと。

ちなみに筍の刺身、煮しめ、天ぷら、木の芽和え、白和え、きんぴら、茶碗蒸し、焼き

筍、筍ご飯、若竹汁、筍のすき焼き、ペペロンチーノそれから、竹水に関しては、焼酎の竹水割り、竹水うどん、竹水パンまでは出来ています。僕が考えているのは、竹水アイスクリームもいいかなと。私、たまたま竹水のおかげで肺ガンから生還したもんですから、竹水を皆さんにぜひ試していただいて元気になっていただきたいなというふうに思っています。

参加者 B

観光資源をどう生かすのかということなんですけど、真備の観光、大きく書いてある地図なんか欲しくて、前は観光パンフレットみたいなものがあったから、ときどき20～25持って帰ってみなさんに真備をずっと案内してたんです。

ところが合併後になりますと、パンフレットはないかと行っても、真備のパンフレットはありません。前あったものは旧真備町分だから処分しました。倉敷の観光パンフレットがありますと、美観地区や鷲羽山とかいろいろありましたけど、他から真備町に来るのに、美観地区や鷲羽山、倉敷市全市のもので、はいどうぞと言っても、始まらないんですよ。その段階で真備町の要所要所の伝統あるパンフレットを作ってくれと言うと、さあ難しいでしょうということで長いこと作ってもらえなかったんです。

つい最近もそろそろ状況が変わったかなと寄ってみたら、1つは真備・船穂観光パンフレットというのがあるんですね、真備のはないのかと聞くと、真備だけの分はありませんと。

ただし真備町健康ウォークというのは、何箇所かモデルコースを書き入れたパンフレットがあると。その方が役に立つかなということで持って帰ったんですが、真備独自のものはウォーキングのマップのようなものだけだと、やっぱり合併の中で真備はその程度までなのかと思う。

ぜひ市長には真備の観光資源を生かし頑張ろうと言ってくれるなら、本庁のほうで市の政策として、ちゃんとやっぱりご配慮お願いできればということで、発言しました。

市長

「真備・船穂観光ガイド」のことでしょうか。これは真備・船穂を一緒に観光コンベンションビューローに作ってもらったんですけど、たとえば玉島には、玉島だけのものは無いはずなんです。倉敷市で作っているもので、たとえば茶屋町だけとか、真備だけとかというのはなくて、倉敷市全域の観光パンフレットの中に、各地区のものが載っていると、その中では真備、船穂も大きく乗っているんですけども、今のところ各地区で個別というのは無いんです。

参加者 B

それは、合併したから・・・。

市長

いえいえ、玉島だけというのも、水島だけというのが無いんです。もともとなくて、この真備・船穂観光ガイドは、非常に中身が濃いなと思って見てたんですけど、倉敷市の考えとしては、倉敷市全体のPRをしていきたいというのがありますので。できれば倉敷

市の中のパンフレットに入っただいてと思うんですが。

参加者 B

全国的によその県から来られる人と、真備町の周辺から真備町に来られる人は違うと思うんですよ。倉敷のパンフレットの中に何とかと何とかと二つ三つ入ってるんです。やっぱりそれだけでは、案内していくときもこの道を通っていくんですよと言えないんです、倉敷全市の観光パンフレットでは。

合併したから行政の節約の……。

市長

節約ではないんですよ。真備地区だけというのは分からないんですけど、市内全般の観光の内容を見直す中で今いただいたご意見も参考にして検討していこうと思います。それとさっき言っていた、筍の料理コンテストもいいかもと思いました。

参加者 J

T 級グルメ……。

市長

なるほど、たけのこの T 級ですね。全国でもあんまりやってないんじゃないかと、やるとしたら何処でやれば良いですかね。場所は、何処が良いですか。マービーがいいですかね。

他のところとちょっと違うようなコンテストをできればいいなと思います。竹水のアイスクリームは、全国で絶対ないですよ。竹水のアイスクリームは非常においしいでしょうね。うどんもパンもそうだと思います。これは何かうまく出来ないものだろうかと思いました。

真備の中の筍の料理の専門家みたいな方、いらっしゃるんですか。いらっしゃるんですね。お祭りのときに、いろいろコロッケとかも出してくださって、また色々アイデアを教えていただければと思います。筍と竹水ですね。全国の中でも竹をもっと PR できるようにしたいなと思っております。

参加者 K

行政の防災無線のシステムの運用・活用についてお尋ねします。

昨年度末に行方不明者がありました。午後 6 時前に真備支所の防災要請無線での搜索の呼びかけの依頼をしました。支所の宿直職員が判断できないので、担当に相談とのことでしたので、連絡をした人のそばに玉島の警察署員がいましたので、電話を変わり再度依頼をしましたが、警察署の担当課、消防署からの連絡がないとできないとか、なかなか事が進まず午後 7 時頃になってやっと放送がされました。早期の対応が、やはりそういう方の生死を分けるのではないかと感じております。システム自体は避難勧告をはじめ、震度 5 弱以上、弾道ミサイル等の情報伝達が主目的であると理解していますが、今後このような行方不明者が出たときに素早い対応をしていただけるような運用及び工夫をしていただけ

ないのでしょうか。

先ほど皆様のほうから防災のことでお話がありましたが、地域でも今後このような時、素早い対応、協力ができるか検討をする中で、やはり各地域でもすでに出来上がっております自主防災組織の必要性もやはり必要なのかなと感じました。

余談ですけども、放送の音量も民家等に考慮して調整していると伺いましたが、家の中では非常に聞こえづらいと聞いております。緊急放送もうまく伝達できるのか、いささか不安でございます。行政のお考えをお聞かせください。

市長

今配備をしております、緊急情報提供無線のシステムについてのお話だったと思います。もともとは防災の地震とか台風災害のときの避難勧告などを呼びかけるなどの用途で配置をしているわけですが、特に真備町では、各地区についていた防災行政無線では、行方不明の案内とかもしていたのではないかと思いますけれど。

たぶん12月のときには担当者のほうも基準が、どういうときに使っていいというのができたばかりで、どこまでがいけるのかというのが、防災危機管理室のほうからうまく伝達が出来ていなかったのではないかと思います。この無線の伝え方については、各地区で色々要望はあるんですけど、たとえばもちろん今のような行方不明者の場合には警察からの必要性などを聞いて無線を使ったほうがいいと思うんですけども、どこまでが、全域のところはかなり細かく配置をしていますので、全部を流していいのかというのを考える必要もあるんじゃないかと思うんですが、たとえば音が小さいこともですね。地区によっては結構うるさいと言われる地区もありまして、まだまだ運用面での使い方に慣れていないところをご指摘のようにあると思います。今日いただきました話を持ち帰りまして、防災のほうとそれから行方不明者など、どこまでどういう場合に使えるかなど再度しっかり検討したいと思います。

参加者 G

関連でお願いしたいことが、最初に設置するときは町内会の会合等も流してもいいという話で設置したんです。それが、実際付いてから運用までが、先般あの放送が初めてで一年以上経ってます。

そういうことともう1つは、途中で声を絞ったのかどうか分かりませんが、最初は聞こえてたんですが、あとは何を言っているのか分からなくなりました。真備支所のほうへ聞こえないということと町内会で使えるといったのに約束が違うということをしたんですが、その返事が確かまだ無いと思います。

市長

今、いただいたお話も、市全般に関わってくることでよく検討して、ちゃんというときにはこうだと伝わるようにしたいと思います。

参加者 G

うわさでは、町内会の呼び出しには使えないということ言われたようなんですが。

市長

防災無線でなかなか町内のことは…、最初の設置の時には使えると言ったんですか？

参加者 G

はい、それで賛成したんですけど。

市長

仕組みというのが、町内会ごとでスイッチが分かれるのかな…？

たとえば箭田町内だけで流そうと思っても、全部他のところまで流れてしまうふうになるんじゃないかと思うんですが、ちょっとよく確認をします。

参加者 H

先ほどの耕作放棄地を借り上げるというのを検討するのかどうかだけお答え頂ければと思います。

市長

今回の予算の中で耕作放棄地について、農林省とタイアップをして対策をするということはあるんですけども、借り上げてというところまではまだいっていません。

それで、長野県とかで市や町がまとめて借り上げをして農業をしたい人に貸すというのをテレビなんかで見るとはありますが、倉敷市ではそこまではいっていないような状況なんです。ここは、農業委員会等と相談をしないといけないんですけども、全市的に始めるというのはなかなか倉敷市ではすぐには難しいかと思っています。

ただ、今お話いただいたりとか全国の中でも始めているところもあると伺っているので、一部の地域からでも検討を出来ないかと思っています。検討はもちろんしていきます。

参加者 I

テーマが「真備の地区の個性と魅力を伸ばすには」ということで、市長も竹のことについて非常に関心があるようでしたので、今日、竹のことで考えたことをお伝えしたいと思うんですが、どうしても竹を材料というふうに捉えるという発想が 1 番圧倒的だと思うんです。食材にしても製品にしても、でも筍が一番おいしい時期は春だけです。真備町で一番おいしい筍を一番楽しんでいただくには、春に来て食べていただくのが良い。コンテストをするなら春がいい、じゃあ一年に一回だけ竹で盛り上がり、あとはシーンとしてしまうのか、それだと継続的、恒続的なまちづくりにならないように感じるんです。じゃあ春のおいしいときにはコンテストをする、夏、子どもたちが竹工作の宿題をする時には、竹工作のコンテストをする、秋には同じように～例えば丹波は木材の町ですから、木材のテーマパーク、クラフトの木材の工房、広く市民の皆さんが工作が出来るシステムを作っています。年一回木のおもちゃコンテスト、木の芸術作品コンテストをしています。そういうのをやれば、時期をずらしてやれるので、冬にはじゃあ門松を作ってみようとか竹を単純に食材とか材料とかよくある視点で見るとはなくて、もっと総合的に捉えていった

ら、新しい魅力として見つめなおすことができるんじゃないかなと考えました。

竹を単純な材料と単体で捉えるのではなくて、幅広い捉え方をして、1年継続して10年20年スパンで捉えるという見方をしたらどうかなと思いました。

他都市でも竹でまちづくりをしているところがあるんじゃないかなと思うんです。そういうところから学ばせていただくとか、梅のまちとか松のまちとか探せばあると思うんですよね、そういうところと提携して松竹梅の3都市提携みたいなことがあったら、竹が単体ではなくて繋がりにっていく。それぞれの魅力が繋がって、それぞれの季節で楽しむことができるというふうに捉えていったら、竹というものが十分観光の中心にもなると思いました。

市長

大変良いご意見ありがとうございました。皆さんも言うてくださいましたが、旬の筍もそうですし、一年中使えるものとかそれから松竹梅の提携のまちづくりも面白いと思いました。他の竹のまちって有名なところってどこがあるんですかね。

参加者

広島竹原、竹田市、高知など。

市長

他の竹でPRしている町についても、参考にしていく必要があるなと思いました。

竹にかける思いは私も皆さんと一緒につもりでありますので、今後ともいろいろご意見を頂きたいと思っております。

今日は長時間にわたりましてどうもありがとうございました。